

資料編

参考文献一覧

第1章第3節

- 山科健一郎、1996：傾斜計の動きからみた雲仙火山の溶岩噴出過程、『月刊地球』、号外15号、pp. 76-81
- 陸上自衛隊、1995：『火砕流発生回数の推移』
- 太田一也、1972：雲仙火山にみられる温泉と地質構造および地震との関係、『地熱』、Vol. 34、pp. 76-81
- 太田一也、1996：雲仙火山の噴火活動を振り返って、『地熱』、Vol. 33、No. 4
- 太田一也、1993：1990-1992年雲仙岳噴火活動、『地質学雑誌』、Vol. 99 No. 10
- 島原地域広域圏組合消防本部、1993：『驚異なる自然と防人の日々』、全216頁
- 大学合同観測班地質班、1992：雲仙火山1991年噴火、地質観察記録（その1）、『火山』、Vol. 37、No. 1、pp. 47-53
- 国土地理院、1995：雲仙岳の最近の溶岩噴出量の計測結果について、『筑波研究学園記者会発表配布資料
- 宮原智哉、遠藤邦彦、陶野郁雄、千葉達郎、磯 望、撰田克也、新川和範、安井真也、小森次郎、大野希一、1992：1991年雲仙・普賢岳噴火とその噴出物—第1報—、『日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要』、No. 27、pp. 71-80
- 渡辺一徳、1992：雲仙・普賢岳1990年11月～1991年5月の噴火活動、『熊本大学教育学部紀要』、41、自然科学、pp. 47-60

第1章第4節・第5節

- 気象庁、2002：平成3年（1991年）雲仙岳噴火調査報告、『気象庁技術報告』、第123号、全372頁
- 太田一也、1997：1990-1995年雲仙岳噴火活動の予知と危機管理支援、『火山』、Vol. 42、pp. 61-74
- 太田一也、1972：雲仙火山にみられる温泉と地質構造および地震との関係、『地熱』、Vol. 34、pp. 76-81
- 太田一也、1993：1990-1992年雲仙岳噴火活動、『地質誌』、Vol. 99、No. 10、pp. 835-854
- 防災科学技術研究所、1991：雲仙岳の温度分布（1）、『火山噴火予知連絡会会報』、第51号、pp. 94-100
- 田中良和、大学合同観測班、1992：雲仙火山噴火にともなう地磁気変化（1991年）、『平成3年度文部省科研費成果報告書』、雲仙岳溶岩流出の予知に関する観測研究、pp. 87-98
- 九州大学理学部（中田節也）、鹿児島大学理学部（小林哲夫）、1991：雲仙岳平成3年噴火の降下火山灰中本質物質とドーム溶岩の特徴、『火山噴火予知連絡会会報』、第50号、pp. 77-82
- 渡辺一徳、星住英夫、池辺伸一郎、1992：雲仙・普賢岳1990年11月～1991年5月の噴火活動、『熊本大学教育学部紀要』、Vol. 41、自然科学、pp. 47-60
- 地質調査所、1993：光波測距による雲仙・普賢岳の山体変動観測、1991年3月-1993年5月、『火山噴火予知連絡会会報』、第56号、pp. 55-61
- 山科健一郎、井上義弘、清水洋、松尾紉道、1992：雲仙火山の噴火と傾斜変動、『平成3年度文部省科研費成果報告書』、雲仙岳溶岩流出の予知に関する観測研究、pp. 50-59
- 山科健一郎、1996：傾斜計の動きからみた雲仙火山の溶岩噴出過程、『月刊地球』、号外15、pp. 76-81
- 平林順一、1996：雲仙岳からの火山ガス放出量、『月刊地球』、号外15、pp. 150-155
- 石原和弘、江頭康夫、西 潔、松島健、内田和也、小野博尉、山田年広、吉川慎、外輝明、迫幹雄、木俣文昭、中村勝、宮島力雄、森 濟、鈴木敦生、1995：地盤変動からみた雲仙火山のマグマ供給システム、『平成6年度文部省科研費成果報告書』、雲仙岳における火山体構造探査の事前調査研究、pp. 53-57
- 竹田豊太郎、小山悦郎、山口勝、1996：光波観測で捉えたマグマ溜りの挙動、『月刊地球』、号外15、pp. 36-41
- 宝田晋治、風早康平、川辺禎久、阪口圭一、須藤茂、山元孝広、曾屋龍典、気象庁雲仙岳測候所、1993：雲仙岳1991-92年噴火の噴出物量と6月3日、8日の火砕流の発生機構、『地質調査所月報』、Vol. 44、No. 1、pp. 11-24
- 植木貞人、清水洋、内田和也、前川徳光、渡辺秀文、須藤靖明、吉川慎、宮町宏樹、石原和弘、1996：雲仙火山の噴火にともなう重力変化、『月刊地球』、号外15、pp. 42-46

- 田中良和、1996：電磁気観測からみた地殻の加熱、『月刊地球』、号外15、pp.145-150
- 野津憲治、1996：噴火後に地下流体に現れるマグマ上昇の影響、『月刊地球』、号外15、pp.156-160
- 太田一也、1996：雲仙・普賢岳の溶岩ドームの活動、『昭和新山生成50周年記念国際火山ワークショップ報告書』、pp.11-21
- 清水洋、松島健、松本聡、松尾紉道、植平賢司、福井理作、内田和也、渡邊篤志、河野裕希、太田一也、2006：雲仙火山の平成噴火の概要と最近の火山活動状況、『第2回雲仙火山の集中総合観測報告書』、全71頁
- Shimizu H.、1993：Seismic activity before and during the 1990-1993 eruption of Unzen Volcano, Proceedings of the Workshop on Volcanic Disaster Prevention, pp.254-258
- 中田節也、佐久間澄夫、宇都浩三、清水洋、2005：雲仙火道掘削の科学的成果の概要、『地熱技術』、Vol. 30、pp.45-52
- Nakada S., Sakuma S., Uto K., Shimizu H., Yoshimoto M., Sugimoto T., Kurokawa M., Shimano T., Goto Y., Hoshizumi H., Oguri K., Nakai S., Noguchi S., 2005：Real images and petrology of magmatic conduit, results of the conduit drilling at Unzen, Extended Abstract Volume, Unzen Workshop 2005, pp.15-16
- 清水洋、松本聡、植平賢司、松尾紉道、大西正純、2002：雲仙火山における火道探査実験、『月刊地球』、Vol. 24、pp.878-882

第1章第7節

- 長崎県、1998：『雲仙・普賢岳噴火災害誌』、全514頁
- 長崎県、財団法人林業土木コンサルタンツ：『平成17年度 雲仙(2)地区火山地域総合』

第2章第1節

- 雲仙・普賢岳噴火災害記録誌作成委員会、2002：『雲仙・普賢岳噴火災害記録集』
- 建設省雲仙復興工事事務所、1993：『雲仙・普賢岳噴火と火山噴火対策砂防事業』
- 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所、2000：『10年のあゆみー火山砂防事業への取り組みー』、pp.1-38

第2章第2節

- 建設省雲仙復興工事事務所、1993：『雲仙・普賢岳噴火と火山噴火対策砂防事業』
- 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所、1996：『活火山にいだむー雲仙・普賢岳の無人化施工ー』
- 池谷浩、2003：『火山災害、一人と火山の共生を目指してー』、中公新書、pp.124-125
- 松井宗廣、2004：火山噴火対策ーその経験からー、『河川』、60巻、第5号、pp.18-24
- 松井宗廣、2004：無人化施工による砂防ダム建設、ー雲仙・普賢岳噴火災害対策ー、『土木技術』、第51、巻11号、pp.31-39
- 国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所、2001：『土石流から安全で住み良いふるさとを創るために、ー雲仙・普賢岳砂防基本計画ー』

第2章第3節

- 山寺喜成、1990：『景観土木の手法 自然との共生をめざす技術データ』、全国SF緑化工法協会
- 雲仙岳・眉山地域治山対策検討委員会、『雲仙岳・眉山地域治山対策検討委員会報告書』、2005、pp.58-152
- 山寺喜成、1997：雲仙・普賢岳のヘリコプター緑化工に関する考察と提案、長崎県雲仙・普賢岳みどりへの一歩、『航空緑化工技術検討会の記録』、p12
- 長崎県、2000：『雲仙・普賢岳噴火災害と治山事業』、p13、p35

第3章第1節

- 陸上自衛隊第16連隊、1995：『普賢岳災害派遣終了報告』、全98頁
- 陸上自衛隊西部方面総監部、1994：雲仙普賢岳災害派遣史、p86

第3章第2節

- 長崎県島原市、1992：『広報しまばら、雲仙・普賢岳噴火災害特集号』、全265頁
- 長崎県島原市、2002：『平成島原大変データブック 雲仙・普賢岳噴火災害記録集(資料編)』、全313頁

長崎県深江町、1993：『広報ふかえ、雲仙・普賢岳噴火災害特集号』、全371頁
島原地域広域市町村組合消防本部、島原市消防団、深江町消防団、1993：『驚異なる自然と防人の日々ー平成3年雲仙岳噴火災害ー』、全216頁
長崎県災害対策本部、1993：『雲仙・普賢岳噴火災害の記録（平成3年度～平成4年）』、全377頁
陸上幕僚監部、1997：『雲仙岳噴火災害派遣行動史』、全383頁
高橋和雄、2000：『雲仙火山災害における防災対策と復興対策-火山工学の確立を目指して-』、九州大学出版会、全580頁
杉本伸一、2001：『そのとき何が 雲仙・普賢岳噴火 住民の証言と記録』、東洋印刷所、全203頁
鐘ヶ江管一、1993：『ヒゲ市長の防災実記763日 普賢鳴りやまず』、集英社、全255頁

第3章第3節

東京大学新聞研究所、1992：1991年雲仙岳噴火調査資料、p3、pp.111-140
民放労連テレビ長崎労働組合、1991：『「雲仙・普賢岳噴火災害報道」事故調査報告書～仲間の死を無駄にしないために～』、p13、pp.17-19、p20
古木杜恵、1991：『新放送文化NHKはどう取材し、報道したか』、新放送文化、No.23、p88
NHK放送文化研究所、1992：『テレビの災害報道はどう評価されたか～「雲仙・普賢岳災害と放送」調査から～』、p3、p8、p12
メディア総合研究所、1991：雲仙・普賢岳の警告、『放送レポート』、112号、p4、p12、p13
メディア総合研究所、1991：「映像第一.安全二の次」の大転換を、『放送レポート』、113号、pp.13-15
廣井脩、吉井博明、山本康正、木村拓郎、中村功、松田美佐、1992：平成3年雲仙岳噴火における災害情報の伝達と住民の対応、『平成3年度 文部省科学研究費重点領域研究』、pp.15-16、p55、p85、pp.134-137
神戸金史、1995：『雲仙記者日記』、ジャストシステム、p9
時事通信労働組合、1992：『雲仙・普賢岳報道』、p59
渡辺実、1992：島原大変とジャーナリズム～雲仙災害報道検証～、『放送批評』、No.278、p34
雲仙集会実行委員会、2001：『普賢岳災害を忘れない、雲仙集会の10年』、p41

第4章第1節1

長崎県総務部消防防災課、1998：『雲仙・普賢岳噴火災害誌』、全514頁

第4章第1節3

長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会、1994：『雲仙・普賢岳火山災害にいだむー長崎大学からの提言ー』、全320頁
太田保之、2001：雲仙・普賢岳の火山災害10周年ー火山災害がもたらしたものー、『自然災害科学』、Vol.20、No.1、pp.18-20
高橋和雄、2000：『雲仙火山災害における防災対策と復興対策-火山工学の確立を目指して-』、九州大学出版会、全580頁

第4章第2節

国土庁、1994：『雲仙岳噴火災害対策一覧（第8回改訂版）』、全33頁
長崎県、1998：『雲仙・普賢岳噴火災害誌』、全514頁
（財）長崎県雲仙岳災害対策基金、2002：『たくましく』、全103頁
島原市、2003：『平成島原大変 雲仙・普賢岳噴火災害記録集』、全495頁
島原市、2003：『平成島原大変 雲仙・普賢岳噴火災害記録集 資料集』、全313頁
島原市、1994：『広報しまばら 雲仙・普賢岳災害特集号1』、全265頁
島原市、1994：『広報しまばら 雲仙・普賢岳災害特集号2』、全252頁
島原市、1995：『島原市復興計画（改訂版）』、全161頁

第4章第3節

長崎県総務部消防防災課、1998：『雲仙・普賢岳噴火災害誌』
財団法人長崎県雲仙岳災害対策基金、2002：『長崎県雲仙岳災害対策基金記録誌 たくましく』、全103頁
財団法人島原市義援金基金、2005：『財団法人島原市義援金基金実績報告集』、全68頁

第4章第4節・第5節

廣井脩、吉井博明、山本康正、木村拓郎、中村巧、松田美佐、1992：平成3年雲仙岳噴火における災害情報の伝達と住民の対応、『平成3年度文部省科学研究費重点領域研究（I）災害時の避難・予警報システムの向上に関する研究』、課題番号（03201119）
高橋和雄、2000：『雲仙火山災害における防災対策と復興対策-火山工学の確立を目指して-』、九州大学出版会、全580頁
木村拓郎、高橋和雄、2004：火山災害復興における住宅、集落再建に関する調査研究 - 島原、上木場地区をケースに-、『自然災害科学』、Vol. 23、No.2、pp. 229-244
木村拓郎、2005：噴火災害時における住宅、集落再建に関する基礎的研究 -雲仙・普賢岳噴火災害をケースにして-、長崎大学大学院生産科学研究科
島原市、1996：『災害の長期化及び警戒区域等の設定に伴う生活実態把握調査』、全29頁
鈴木広、1998：『災害都市の研究-島原市と普賢岳-』、九州大学出版会、全387頁

第4章第6節

NPO島原ボランティア協議会、2001：『普賢岳からのメッセージ 災害ボランティアの風 1991～2001』、全264頁

第5章第2節

長崎県土木部、1992：『島原地域整備計画調査報告書』、全123頁
国土庁、1992：『平成3年度火山災害に対応した防災地域づくりに関する調査（雲仙岳周辺地域にかかわる防災地域づくり）報告書』、全111頁
島原市、1993：『雲仙・普賢岳噴火災害島原市復興計画』、全225頁
深江町、1993：『深江町復興計画』、全153頁
島原市、1995：『雲仙・普賢岳噴火災害島原市復興計画（改訂版）』、全161頁
長崎県、1993：『雲仙岳災害・島原半島復興振興計画』、全195頁
火山観光資源化調査検討委員会、1995：『火山観光化推進基本構想』、全56頁
島原地域再生行動計画策定委員会、長崎県、島原市、南高来郡町村会、1997：『島原地域再生行動計画（がまだす計画）』、全133頁
雲仙普賢岳砂防指定地利活用方策検討委員会、1997：『雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想報告』、全39頁

第5章第3節

島原市、1993：『雲仙・普賢岳噴火災害島原市復興計画』、全225頁
深江町、1993：『深江町復興計画』、全153頁
長崎県、1993：『雲仙岳災害・島原半島復興振興計画』、全195頁
火山観光資源化調査検討委員会、1995：『火山観光化推進基本構想』、全56頁
島原地域再生行動計画策定委員会、長崎県、島原市、南高来郡町村会、1997：『島原地域再生行動計画（がまだす計画）』、全133頁
雲仙普賢岳砂防指定地利活用方策検討委員会、1997：『雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想報告』、全39頁

第5章第4節

高橋和雄、木村拓郎、西村寛史、2000：島原市安中三角地帯嵩上事業と被災者の生活再建に関する調査、『土木学会論文集』、No.644/IV-46、pp. 25-39

木村拓郎、高橋和雄、2005：島原市安中三角地帯嵩上げ事業に関する住民の合意形成過程に関する調査研究、『土木学会論文集』、No.786/IV-67、pp. 145-155

第5章第6節

長崎県土木部、1993：『島原地域防災都市計画策定調査報告書』、全92頁

高橋誠司、西原純、1994：雲仙普賢岳活動による交通規制と島原半島南部地区の住民の購買行動の変化、『雲仙火山災害の調査研究(第3報)』、雲仙火山災害長崎大学調査研究グループ、pp. 67-74

建設省雲仙復興工事事務所、1994：『雲仙・普賢岳災害道路関係対策記録集』、全105頁

第5章第9節

西日本新聞、1991：『「大丈夫」島原からの先手連絡、親類とリレー網を』

N T T長崎支店設備部、1994：『普賢岳災害対策の歩み』、全74頁

第6章第1節

長崎県、1998：『雲仙・普賢岳噴火災害誌』、全514頁

第6章第7節

下鶴大輔、伯野元彦、1995：『自然災害と防災』、学振新書、全322頁

第6章第8節

高嶋哲夫、2006：『巨大地震の日一命を守るための本当のこと』、集英社新書、pp. 82-85

江川紹子、2004：『大火砕流に消ゆー雲仙・普賢岳、報道陣20名の死が遺したもの』、新風舎文庫、pp. 219-236

太田一也教授退官記念文集成成有志の会、1999：『太田一也教授退官記念文集』、pp. 118-120

第6章第16節

長崎地域再生行動計画策定委員会、長崎県、島原市、南高来郡町村会、1997：『島原地域再生行動計画』、全133頁

長崎県土木部、1993：『島原地域防災都市計画策定調査報告書』、全92頁

コラム3

山梨県環境科学研究所、宇都宮大学、北海道大学ほか、2005：日本の火山ハザードマップ(上)、『月間地球』、通巻310号、Vol. 27、No. 4、pp. 247-252

コラム5

廣井脩、吉井博明、山本康正、木村拓郎、中村巧、松田美佐、1992：平成3年雲仙・普賢岳における災害報告の伝達と住民の対応、『平成3年度文部省科学研究費重点領域研究（I）災害時の避難・予警報システムの向上に関する研究』、全145頁

コラム12

駒田亥久雄、1916：温泉岳火山地質報文、『震災予防調査会報告』、84号、pp. 1-108。{雲仙火山の地質や噴火史に関する最初の論文}

島原市、1996：溶岩ドームを「平成新山」と命名、広報しまばら平成8年6月号